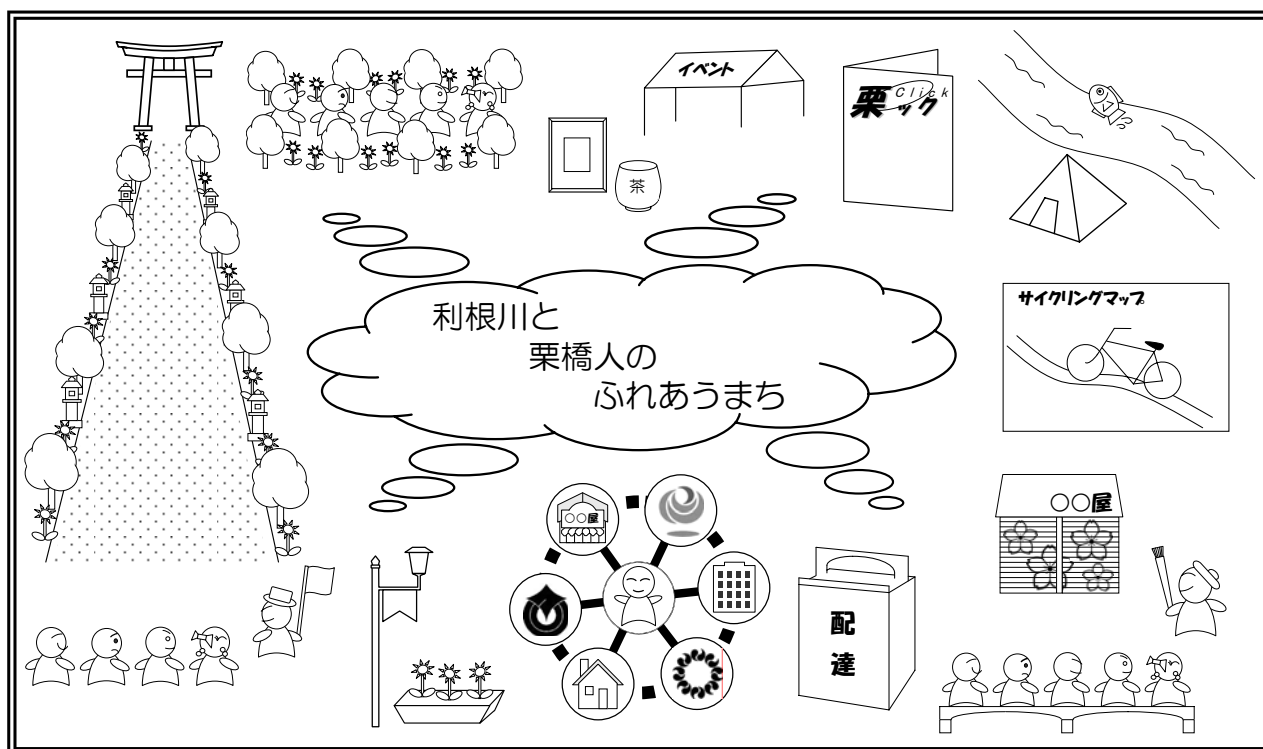


—行政をはじめとしたまちづくりに関係する皆様へ—

『利根川と 栗橋人の ふれあうまち』 の 実 現 へ 向 け た - 提 言 書 -



平成21年2月

利根川沿川栗橋地区活性化検討委員会

『利根川と 栗橋人の ふれあうまち』の実現へ向けた

- 提 言 書 -

目 次

1. 目 的	2
2. 検討の基本的な考え方	4
3. 目指すべきまちの姿	4
4. 『目指すべきまちの姿』を実現させるためのアイデア	5
4-1 アイデアを実現させるための考え方	5
4-2 実現したいアイデア	6
5. 『目指すべきまちの姿』の実現へ向けた体制づくり	36
5-1 活動組織の必要性	36
5-2 パイロット事業を実施した組織	37
5-3 発展する活動組織	38
5-4 活動と支援の輪を広げるために	40
— おわりに —	45
《資料》検討スケジュール	46

1. 目 的

旧日光街道沿いの利根川沿川栗橋地区（以下「この地域」）は、国土交通省利根川上流河川事務所が行う用地買収方式による利根川堤防強化事業に伴い、生活環境やコミュニティー等に大きな影響を受けることになります。

その一方で、悠久の歴史とともに現在も栗橋町の守り神として篤い信仰を集めている八坂神社と、地域住民の安心・安全を確保するための防災公園を堤防上へ整備することや、新たに創造される緩やかな堤防のり面を利用した植栽、さらには日光街道沿いの街並み整備などが併せて行われようとしていることから、この地域の将来像や活性化方策等について、地元の方々を中心として検討することが重要であると考え、「利根川沿川栗橋地区活性化検討委員会」（以下「検討委員会」）を昨年度（平成19年度）に設置しました。

さらにこの地域における様々な課題を把握・分析し、この地域の目指すべきまちの姿や活性化方策の素案を作成するため、検討委員会の委員長が指名した委員により「利根川沿川栗橋地区活性化検討委員会作業部会」（以下「作業部会」）が設置されました。

作業部会ではワークショップの手法により、各委員がのびのびと自由な意見が出せる環境で、平成19年度に5回、そして平成20年度に4回、合計9回の作業部会を開催し議論を重ねるとともに、作業部会終了後には「部会通信」を作成し、地域への情報発信を行ってきました。

昨年度の検討委員会では、「利根川と 栗橋人の ふれあうまち」をこの地域のキャッチフレーズとし、「生活・商業・資源の3分野の理念と目標イメージ」から構成された10年後の「目指すべきまちの姿」を策定するとともに、「目指すべきまちの姿」に近づけるため、「99のアイデア」としてアイデアのとりまとめを行いました。

今年度は策定した10年後の「目指すべきまちの姿」に近づけるため提案された「99のアイデア」と一般公募を行ったアイデアなどから、実現したい・実現すべきアイデアを選択し、そのアイデアを実現させるための方策や具体的に活動を行う組織についての検討を行い、平成20年11月に開催した第5回委員会では、この地域の活性化を推進していく過程で来年度実施したいアイデアをまとめた「中間提言書」を栗橋町に提出したところです。

堤防強化事業の個別交渉がスタートし、本格的に堤防整備事業が着手されることに加え、栗橋町は久喜市をはじめ1市3町による市町村合併を目前の平成21年度末に控えています。合併後の新市の中にしっかりとこの地域の活性化が位置づけされるよう、現在から将来にわたり実施したい・実施すべきアイデアと具体的に活動を行う組織について整理を行い、今回『利根川と 栗橋人の ふれあうまち』の実現へ向けた提言書』としてとりまとめましたので、栗橋町をはじめとした関係機関の方々に提案したいと思います。

この提言書がこの地域の活性化について行政・地域住民が一体となって取り組むきっかけになればと思います。



平成21年 2月25日

利根川沿川栗橋地区活性化検討委員会

委員長 櫻 澤 仁

2. 検討の基本的な考え方

この地域は、日光街道の宿場町として栄え、また関東三大関所の一つとして多くの人が往来する交通の要衝として発展してきました。

近年では宿場町の面影は薄れていることに加え、堤防強化事業によりまちは大きな影響を受けることになります。

現在進められている堤防強化事業は地域には大変な痛手ではありますが、皆さんで協力しながら事業を進めて行かなければなりません。

同時にこの地域の名が将来にわたって残っていくように、まちづくりを行わなければならないため、自分たちの住むこの地域に誇りを持ち、愛着を持てるまちづくりを行っていくことを念頭に置き、検討を進めてきました。

3. 目指すべきまちの姿

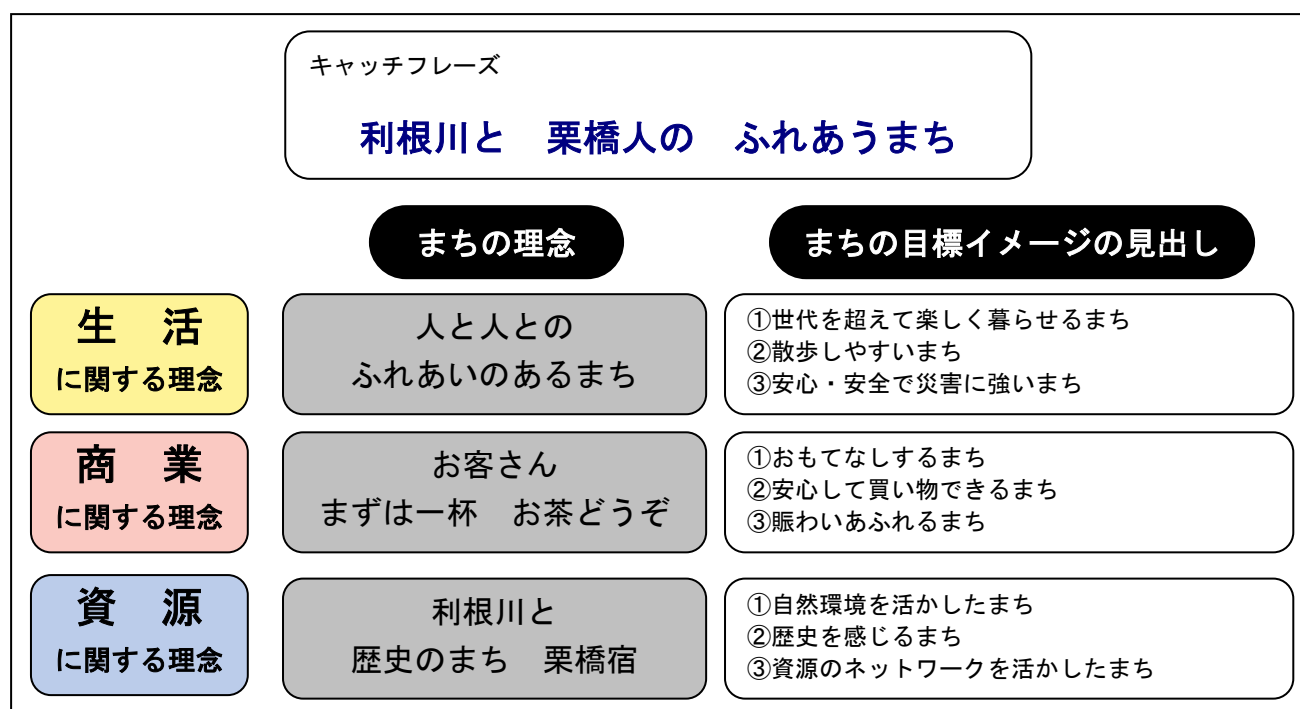
平成19年度の検討委員会では、この地域の10年後の「まちの目標イメージ」を検討し、それらを分かりやすく・簡単に表現し、これからも大切に守っていききたいまちの価値観である「まちの理念」を作成しました。

また、「まちの理念」をもっと分かりやすく伝えるために、この地域の目指すべき姿を一言で表現する「キャッチフレーズ」も作成しました。

そして「キャッチフレーズ」、「生活・商業・資源の3分野の理念」と「目標イメージ」から構成された『10年後の「目指すべきまちの姿」』を検討委員会で策定しました。

これをこの地域で取り組む内容や方向性を決める指針として、活性化を目指すアイデアの検討を行いました。

■ 10年後の「目指すべきまちの姿」



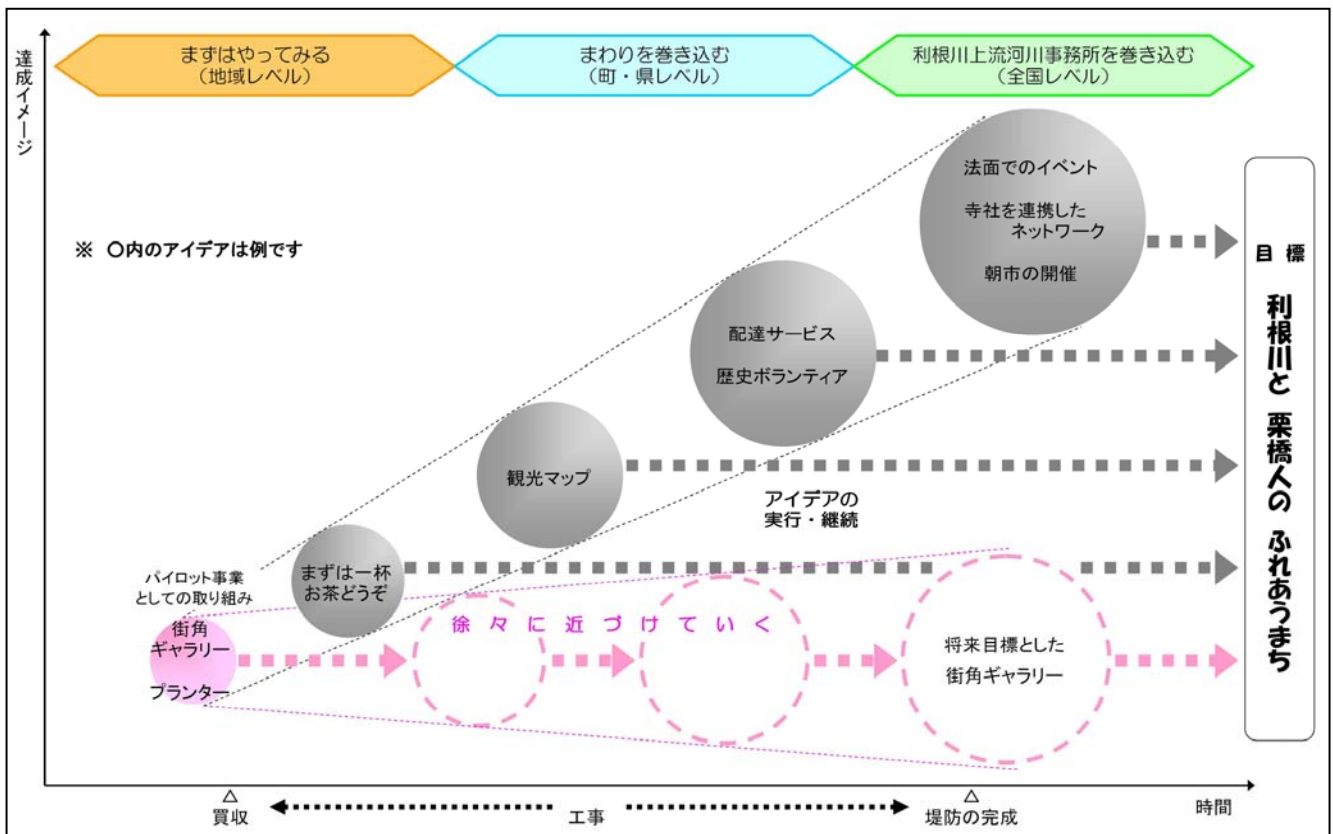
4. 『目指すべきまちの姿』を実現させるためのアイデア

4-1 アイデアを実現させるための考え方

提案されたそれぞれのアイデアは、「今年の目標」から「来年の目標」へと、実現可能な目標から徐々に段階を踏んで行きながら、「将来の目標」へステップアップしていくと考えます。

また、提案された様々なアイデアの中からどのアイデアを実行するかについても、まずは実行可能な内容から始めていき、地域を徐々に巻き込みながら大がかりなアイデアへ移行していくことで、目指すべきまちの姿である「利根川と 栗橋人の ふれあうまち」につながっていくと考えます。

■ 目標マップ



4-2 実現したいアイデア

1) 「目指すべきまちの姿」に近づけるためのアイデア集

平成19年度に策定した10年後の「目指すべきまちの姿」に近づけるため提案されたアイデアについて、以下の通りとりまとめました。

■ 生活に関する理念

人と人との ふれあいのあるまち

まちの
目標イメージ

1

世代を超えて楽しく暮らせるまち

- 世代を超えた多様な人々が交流し、近所付き合いを大切にしまちづくりを行っている。
- みんなが地域のボランティア活動に積極的に参加するなど、地域の連帯感を大切にしまちづくりを行っている。
- 堤防整備事業に併せてポケットパークなどを整備し、昔の遊び場など楽しい仕掛けで世代を超えた憩いの場として活用している。

【実現へ向けてのアイデア】

- 住民同士がそれぞれの特技などを教え・学びあう場(学校)を作る
- マンションを建てるなど、この地域に住む人を増やしていく
- お店のお宝を展示(お店のお宝巡り)、孫と一緒に集める、歴史資源の活用など割引特典付きスタンプラリーを実施する
- 関所を連想する大名行列などのイベントを行う「関所祭り」を実施する
- 子供から高齢者まで遊べる(集える)みんなの広場(ポケットパーク)や井戸端会議所のような場所をつくる
- プランターやハンギングフラワー(壁掛けの花かご)の設置や堤防の植栽などにより、花いっぱいのまちづくりを行う
- 地元の昔話、言い伝えなどからまちのキャラクターを作る
- 1つの計画を実現するのも容易なことではないので、この計画を理解し賛同する方々を募り、活動の主体となる組織を作り、実現化のための具体的方策を検討しながら進める
- 地域で困っている方を助け合う
- ドッグランができるような広い公園を整備するなど、動物を飼いやすい環境にする
- 利根川橋の完成時の渡り初めイベントに商店街で参加する

まちの
目標イメージ

2

散歩しやすいまち

- 堤防を活用した遊歩道が整備され、自然と親しみながら散策できる環境が整備されている。
- 街路灯などが整備され、安全で快適に散歩できる環境が整っている。

【実現へ向けてのアイデア】

- 自転車専用道路を整備する
- 宿場のイメージなど地域のシンボルとなるテーマを決め、街路整備をする(ゆったりとした歩道幅員・街路灯・照明灯・植栽・ベンチ)
- 旧日光街道東側の電柱を管理用道路側に移すなどの方策により無電柱化を行い、歩きやすい歩道として整備する

まちの
目標イメージ

3

安心・安全で災害に強いまち

- 堤防整備事業が完了し、堤防が強化されるとともに堤防上に避難場所が整備されるなど、災害に強いまちづくりを行っている。
- 地域の自主的な防犯活動などにより、安心して安全に暮らせるまちづくりを行っている。

【実現へ向けてのアイデア】

- 地域を防犯面から見直し、街路灯を増設して町内を明るくする
- 夜間は町内が真っ暗なので、街路灯のメンテナンスをして明るくする
- 地域みんなで子供の安全を見守る活動に取り組む

■ 商業に関する理念

お客さん まず一杯 お茶どうぞ

まちの
目標イメージ

1

おもてなしするまち

- ❑ 大型店にはない特色を出して、おもてなしを大切にした商売をしている。
- ❑ 心のこもった会話による商売で買い物客を魅了している。
- ❑ ベンチなど誰でもくつろげる場所が、ところどころに提供されている。

【実現へ向けてのアイデア】

- 他にない・特色ある・品質に自信がある商品を扱い個性ある専門店街にする
- 駐車場・公園・ベンチ・トイレ等の環境整備を行うとともに、「観光・商店・駐車場・休息所マップ」を作成して駅などの主要場所へ配置(配付)する
- 接客マナー向上宣言書を店頭に掲示する
- お客さんへのお茶の提供やトイレの利用可能店を表示するなど買い物しやすくする
- 買い物中にだれでも休憩できるベンチや縁台を設置し、縁台通りとする
- 堤防上に日本一長いベンチを設置するなど、話題づくりを行う
- 空き店舗・民家を借用して、まちを案内するスポット、休息所や公衆トイレなどとして提供する

まちの
目標イメージ

2

安心して買い物できるまち

- ❑ 誰もが安全で快適に買い物できる環境が整っている。
- ❑ 地域に根ざした誠実な商売を行い、買い物客に信用を得ている。
- ❑ 駐車場を備えた商店街として商圈を広げて買い物客の取り込みを行い、まちの賑わいを創出している。

【実現へ向けてのアイデア】

- 時間帯による車両の通行止めなどにより、商店街で買い物しやすくする
- 高齢者などに優しい、バリアフリー化した歩道を整備する
- 商品情報、街歩き情報などのタウン誌を発行する
- 高齢者や体の不自由な人のための送迎や個別配達サービス(電話連絡係をつくる)
- 地区内で安心して授乳やおむつ替えができるようにする

賑わいあふれるまち

- 地域に住む人々の生活に必要な店舗が集まっていて、商店街には買い物客で賑わっている。
- 整備された堤防などを利用して様々なイベントを開催するなど商店街が協力し合って、人をひきつける賑わいづくりをしている。
- 夜も楽しめる店があり、暮らしに豊かさと潤いを持たせている。
- 駐車場を備えた商店街として商圈を広げて買い物客の取り込みを行い、まちの賑わいを創出している。(再掲)

【実現へ向けてのアイデア】

- うなぎや鯉などの川魚料理の専門店を作り、名物にする
- 住宅地と商店街を分離するとともに、商店の集約化や商店の募集をするなど、歯抜け商店街対策をする
- 街灯を利用したフラッグなど、目立つものを各店舗で揃え商店街の統一性を出す
- くりちゃんカードのポイント加算を分かり易くするなど、利用促進を図る
- インターネット上にリアル商店街と同じバーチャル商店街を設置する
- シャッターに歴史的な絵を描き、商店街に注目を集める
- 傾斜が緩くなる堤防や管理用道路をイベントやロケ、国道4号の壁面を利用した映画上映、花火大会などで活用する
- 町内の方限定や町外の方限定などの限定セールを行う
- スタンプ券活動・ナイトバザール・朝市・土曜日・謎解きとまちなか探検を行うミステリーツアーなどイベントを活発に行う
- インターネットやマスコミを利用してPRを行う
- 小学校や各種団体とコラボした街角ギャラリーを開催する
- キャンピング場を利根川に設置する
- 栃木では商工会議所中心、当町でも商工会が前面に出て活動の中心となる

■ 資源に関する理念

利根川と 歴史のまち 栗橋宿

まちの
目標イメージ

1

自然環境を活かしたまち

- 堤防の遊歩道や緩やかなのり面などを、四季折々の草花で彩り、美しい景観を創出している。
- 雄大な利根川や堤防などの自然環境を、様々な仕掛けやイベントなどで活用して、多くの人々が訪れる賑わいづくりをしている。

【実現へ向けてのアイデア】

- 四季折々の花などを植えるなど、堤防を新たな観光スペースとして活用する
- 雄大な利根川を活用したイベントを行う
- 川のサミットを開催し利根川・筑後川・吉野川の流域との交流を図る
- 川魚の泳ぐ水槽の設置や利根川の水をまちなかに引き込み魚を泳がせるなど、水に親しめるようにする
- 堤防上の強い風を利用した風力発電やのり面に太陽光発電パネルを設置し地域内で利用する
- 利根川の応援歌(ご当地ソング)を作り広める

まちの
目標イメージ

2

歴史を感じるまち

- 宿場町の面影を大切に、まち全体に統一感をもたすなど、このまちの特徴を出した魅力あるまちづくりを行っている。
- 八坂神社や寺社などの歴史・文化資源を大切に活用するとともに、先人達が培ってきた。夏祭りなどのイベントを大切に保存・継承している。
- 地域の歴史について説明する歴史ボランティアなどを育成して、町内外から訪れる人を歓迎している。

【実現へ向けてのアイデア】

- 看板・店舗の色彩・働く人達の衣装の統一や木札・のれん・あんどん・風鈴などの使用により、宿場町にふさわしい街並みに統一する
- 建物の形態や色彩に統一感を持たせる
- 八坂神社・関所跡・公園・偲ぶ館等歴史をまとめたゾーンを作り、朝市などのイベントが開けるようにする
- 八坂神社の参道整備を行い、旧日光街道沿いから行きやすくする
- 集客施設として、空き店舗、空き民家を借用しての歴史資料館の開設や関所の復元をする
- 栗橋宿のことを説明できる歴史ボランティアを育成する

3

資源のネットワークを活かしたまち

- 利根川や堤防、八坂神社などの水と緑をネットワークでつなぎ活用することにより、多くの人々が回遊している。
- 地域にある八坂神社や関所址などと、周辺にある寺社などの歴史・文化資源をネットワークでつなぎ活用することにより、多くの人々が回遊している。

【実現へ向けてのアイデア】

- 街からの誘導路を作り、利根川に親しめるようにする
- 堤防のり面、壁面に利根川水系の魚の説明板を設置する
- 歩道上に地域の案内板や観光案内板を整備する
- 堤防上の平場に八坂神社・歴史的史跡をまとめ、憩いの場所も確保し、堤防から街におりる緩やかな道を両脇に作り、帰りに買い物へ行けるようにリンクさせる
- 河川沿いのサイクリングロードマップの作成や貸し自転車によりサイクリングのまちにする
- 堤防のり面の坂を利用した健康づくりスポットを整備する

2) パイロット事業の実施

「目指すべきまちの姿」を実現するためには、まずはできるアイデアから始めることが重要だと考えています。

第一歩を踏み出すことができれば、そこから徐々にステップアップして、より大がかりなアイデアの実行につながって行くと考えているからです。

第一歩として実行するアイデアの条件としては、比較的準備が容易であること、資金や人手がそれほど掛からないこと、来年度以降も継続して実行できるようなものが良いと考えました。そして「目指すべきまちの姿」に近づくため提案されたアイデアの中から、2つのアイデアを選び出し、これらをこの地域の活性化へ向けた最初の試みとなる「パイロット事業」として位置づけました。パイロット事業の実施状況は下記の通りです。

(1) 小学校や各種団体とコラボした街角ギャラリー・お茶の提供やトイレの使用

- プロジェクト名：まちなかの 小さな美術店 通り
- 協賛店舗数：34店舗
- 展示作品数：103点
- 開催日程：2008年12月 1日～2008年12月24日
- 開催写真



(2) プランター・ハンギングフラワーの設置

○ プロジェクト名：

プランターによる「旧日光街道」花いっぱい^{咲く}作戦

プランター里親大募集 ～花をいっぱい咲かせてみませんか～

○ 里親募集状況（2009年11月21日現在）

参加店舗数：45店舗 地域住民の方々：38世帯

○ 花植え会開催日：2008年11月22日（土）

○ 花植え会参加人数：31人

○ 開催写真



○ 新聞記事

栗橋町の旧日光街道約800mを花で飾ろうと、街道沿いの商店や住民らが22日、プランターにパンジーを植えて

パンジー植え 街道鮮やかに

栗橋



プランターにパンジーを植える町民たち＝栗橋町

軒先に並べた。利根川堤防の整備事業に伴い、地域の活性化に取り組む同町の「利根川沿川栗橋地区活性化検討委員

会」で提案されたアイデアを、実行委員会を組織してパイロット事業として実施した。賛同する商店、住民にプランターを管理してもらう。

参加者約50人がプランター約400個に花を植えた。黄や紫、青の花を選び、一つのプランターに3鉢ずつ置かれ、講師は土の入れ方や肥料の与え方などを教えた。

同検討委員会は活性化策を中間の提言書にまとめ、斉藤和夫町長に21日手渡し、来年度の予算化を要望した。提言書は、10年後の「目指すべきまちの姿」として、「利根川と栗橋人のふれあうまち」がキャッチフレーズのアイデアを提案。来年度には、花プランター設置のほか、街道沿いに小中学生の絵を展示する「小さな美術館通り」、新利根川橋の完成時渡り初め、街灯を利用するフラッグ設置を盛り込んだ。

2008年11月23日 朝日新聞

3) 来年度実施したい・実施すべきアイデア

「目指すべきまちの姿」に近づけるため検討されたアイデアの中から、来年度から実施したい・実施すべきアイデアを選び出し、その具体的方策や要点について検討しました。

その内容を「来年度実施したい・実施すべき4つのアイデア」として提案します。

■ 来年度実施したい・実施すべき -4つのアイデア-

◆Idea 1

小学校や各種団体とコラボした街角ギャラリー・お茶の提供やトイレの使用

◆Idea 2

プランター・ハンギングフラワーの設置

◆Idea 3

利根川橋の完成時の渡り初めの実施

◆Idea 4

街灯を利用したフラッグの設置

上記 **Idea 1**・**Idea 2**はこの地域の活性化へ向けた最初の試みとなる「パイロット事業」と位置づけ、今年度の目標・将来の目標を検討し、事業化するための具体的な方策を検討しました。

そしてこの事業に協賛いただける企業の協力を得ることができたことから、今年度の目標を達成させるため「パイロット事業実行委員会」を組織し実行している段階にあります。

今回提案した4つのアイデアをそれぞれ継続して実行していくには、アイデアに賛同し実際に活動（行動）するチーム（組織）が必要であり、またアイデアを実行する資金も必要になってきます。

Idea 1 : 学校や各種団体とコラボした街角ギャラリー

お茶の提供やトイレの使用

以下がパイロット事業として実行に移した「アイデア実行シート」ですが、平成21年度も年間を通した展示企画に基づき、引き続き事業を継続していきたいと考えています。

アイデア実行シート(パイロット事業)

実 行 日	平成20年12月から継続事業	事 業 主 体	パイロット事業実行委員会	
プロジェクト名	まちなかの 小さな美術店 通り			
事業実施の効果	・将来的には空き店舗を活用したギャラリー化を目指す、パイロット事業として旧日光街道にある店舗に町内小・中学生の作品（絵画）を展示し、ギャラリーストリートと位置づけ、「来て・見て・おもてなし」を基本とした商店街の活性化を図る ・絵画・写真・俳句など愛好者の発表の場として店先を提供し、文化団体との連携を深め、芸術を基軸とした地域の活性化を図る			
概 算 事 業 費				
平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
100, 000円	50, 000円			
項 目	実施する事項など		検討する事項など	
Where どこを・誰を対象に （対象範囲）	・旧日光街道沿線の店舗（約40店舗） ・第1弾の展示期間→12月から1ヶ月程度		・事業PR・賛同の取りつけは実行委員会委員が手分けする ・とりまとめは 関所通り商店会 → 柿沼委員 ふれあい通り商店会 → 吉岡委員	
How どのようにして （実現手段）	・店舗内のボード又はウインドーに作品を張り付け、ストリートギャラリーを展開する ・ギャラリーに訪れた方へのお茶等の接待、トイレの提供をする →目印となるもの（ステッカー）によるPR ・町内小中学校で作成した絵画の展示を行う ・第2弾、3弾として、四季折々話題性や趣向を凝らした展示とする ・小さな美術展通りのイラストマップを作成する（どこの店が協賛店か解るようにする）		・ギャラリー化店舗の調査→協賛登録用紙で確認する 1）各店舗展示枚数 2）ボードが必要か、直張り可能か 3）お茶の接待は可能か 4）トイレの提供は可能か ・第2弾以降展示物の企画会議が必要 ・企画にもとづく文化団体との作品提供交渉 ・PRステッカー・マップの作成 →事務局と協力して作成する	
When いつ （実現時期）	・11月中に教育委員会を介し、「郷土を描く美術展」の作品提供依頼を行う ・必要な作品数の提供が可能 ・第2弾として年末大売り出しにあわせたタイムリーな企画展示を行う		・町内小中学校で行っている、「郷土を描く美術展」の作品を展示する ・写生会は実施していない →現在の風景写真によりイメージして作品化することは可能 →早めに教育委員会との調整が必要 ・町内の文化協会加盟団体と交渉するのは誰（別紙）→吉岡委員（事務局もフォローする）	

Who だれが (実現体制)	・パイロット事業実行委員会が主体となり展示物の企画づくりから作品提供の交渉、展示物の配付、回収まで行う ・募集の「チラシ」やポスターの作成など事務局も作成をフォローする	・企画運営会議を開催する ・展示物提供依頼、調整するのは→吉岡委員 ・個店への配付・回収担当者 関所通り商店会 → 柿沼委員 ふれあい通り商店会 → 吉岡委員
How Much いくらで (必要費用)	・店舗を活用したギャラリー運営費用は、各店舗の負担とする ・各店舗で創意工夫し、展示する ・作品展示用のボード(コンパネ)は、パイロット事業実行委員会です予算化することは可能 1,500円×40枚=60,000円 ・協賛ステッカー:400円×100枚=40,000円	・見学者へのおもてなし費用として、商店街の経費からお茶代を捻出できないか 関所通り → 検討する ふれあい通り → 可能
Plus α	【事業PR】 1) 広報くりはしへの情報提供 2) マスコミへの投稿 3) タイムリーな作品展示 ◆キーワード クリスマス 歳末 年始 新入学 花見 祭 名月 栗橋宿 歴史 街並み etc 4) 町のホームページを活用する 5) 商工会のホームページを活用する 6) ポスターを作成する * ストリート美術店が解るようなイラストマップ(どこの店に何が展示されているか解った方がよい)	【来年度以降の企画提案】 1) 旧日光街道沿線全ての軒先をギャラリーと位置付け、「栗橋宿 アート ストリート化」できないか→空き店舗のシャッターは大きなキャンパス:継続検討事項 2) 作品審査を行ってはどうか(賞品を授与) 3) 空き店舗を活用したギャラリーの実現へ向けた調査:継続検討事項 ・ギャラリーのみならず、教室へ発展させてはどうか ・地域の情報発信地、活動拠点としての役割を担う施設として利用してはどうか
平成21年度 予算の積算根拠	協力店が提供するお茶代:20,000円 作品を展示する掲示板代:30,000円	・ギャラリー協賛店(50%) 20店舗×1,000円=20,000円 ・展示用ボード 1,500円×20枚=30,000円

■協賛ステッカー



Idea 2 : プランター・ハンギングフラワーの設置

以下がパイロット事業を実行に移した「アイデア実行シート」ですが、平成21年度も引き続き年間を通した事業として、継続していきたいと考えています。

アイデア実行シート(パイロット事業)

実 行 日	平成20年11月から継続事業		事 業 主 体	パイロット事業実行委員会	
プロジェクト名	プランターによる「旧日光街道」花いっぱい ^{咲く千} 作戦 プランター里親大募集 ～花をいっぱい咲かせてみませんか～				
事業実施の効果	・花(パンジー)を植えたプランターを旧日光街道沿線に設置し、良好な生活環境を創造するとともに、来街者へのおもてなしを図る ・プランターの設置や、日々の管理を地域の活動と捉え、地域ぐるみで積極的に参加することによる連帯感やコミュニティーの醸成を図る ・プランターには「スポンサーコマーシャル＆育てていますネームステッカー」を貼ることで、より、管理所在を明確にするとともに継続的に事業を展開する				
事業費					
平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
400,000円	216,000円				
項 目	実施する事項など		検討する事項など		
Where どこを・誰を対象に (対象範囲)	・旧日光街道沿線両側約800m区間に設置する(400個) ・プランターの仕込み～日常管理を地先の住民にお願いする ・今年度は沿川世帯中、30%の賛同者を目標とする		プランター：L=600mm 色：全て白で統一する		
How どのようにして (実現手段)	・パイロット事業実行委員会で準備、段取りを行う ・プランターづくりから設置まで、沿線住民の協力により実施する ・特に商店街(関所通り・ふれあい通り)との連携を図り、実施する ・個人的にプランターをバージョンUPすることは可とする ・プランターづくりのアドバイスは、地域にお住まいの須永さんが行う		・事業PRチラシ(案)の作成→別添 ・PR(募集)する人は ◎関所通りの商店にPRするのは→柿沼委員 ◎ふれあい通りの商店にPRするのは→田沼委員 ◎沿川参加住民へPRするのは→自治会長へ依頼するorチラシによる募集 or 口コミ 上二地区→ 上二地区→ 仲一地区→ 仲二地区→ } 実行委員会11人が } 分担して募集 ・「スポンサーコマーシャル＆育てていますネームステッカー」デザイン(案)→別紙 ・当日、簡単な育て方指導→須永さん		

Idea 3 : 利根川橋の完成時の渡り初めの実施

平成21年中に国道4号と新利根川橋の擦り付け工事が完了し、新橋梁の供用が開始されるとともに本格的に堤防事業が動き出すなど、いよいよこの地域に変化が訪れることとなります。そこで橋梁の渡り初めをこれからの地域活性化へ向けた1つのアクションと捉え、地域住民が一緒になってイベントに取り組むことで、人々の交流を活発化させ、地域への愛着を高めるきっかけになると考え以下の通り提案します。

アイデア実行シート

実 行 日	平成21年中	事 業 主 体	(仮称)新利根川橋渡り初め盛り上げたい ^隊	
プロジェクト名	新利根川橋渡り初め事業			
事業実施の効果	「地域のふれあいづくりの第1歩」 これから行われる堤防事業による大きな変化に先立ち、利根川橋の架け替えと いう変化が訪れる。この変化に対して地域の人達が一緒になって渡り初めイベント に取り組むことで、人々の交流をより活発化させて地域への愛着を高めることに つながる。			
項 目				
平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
	—	—	—	—
項 目	実施する事項など		検討する事項など	
Where どこを・誰を対象に (対象範囲)	・利根川沿川住民や対岸の古河市民を巻き込む			
How どのようにして (実現手段)	・イベントとして検討中のアイデア 1) 利根川橋上の県境で、栗橋町民と古河市民が綱引きを行う 2) 前夜祭に商店街での模擬店を出店やビンゴゲーム大会などを行う 3) 栗橋町、古河市の婦人会流し踊り 4) 女神輿の実施 ※八坂神社の神輿は難しい 5) 東中学校のブラスバンド行進 ・イベント以外のアイデア 1) どうして橋を新しくしたのか、橋の特性等のパンフレットを作りPRする		・イベントの内容を確定する必要がある ・当日行うのであれば、限られた時間内(2～3時間)でできる内容に特化する ・古河市または中田宿の商店街と共同化できるか確認する必要がある ・宇都宮国道は何を企画するのか事前相談する必要がある →式典の日程や内容は決めていない ・橋上を利用する場合、人と車をどう誘導(搬入含む)するのか、どう商店街に誘導するのかを検討する必要がある	

When いつ (実現時期)	・平成21年中の供用開始に合わせて企画、運営する ・供用開始前の橋梁上の活用は可能	・供用開始日が直前にならないと分からないので、宇都宮国道との連携が必要である
Who だれが (実現体制)	・商店会に協力してもらう ・宇都宮国道・栗橋町とも可能な範囲で協力が得られる ・(仮称)利根川橋渡り初め盛り上げたいを組織しアイデア・企画・運営を行う	・10月28日にアイデア実行シートを持って宇都宮国道と相談する ⇒ イベントを実施するのであれば協力するという回答を受けた
How Much いくらで (必要費用)	・実施する内容を十分に検討し予算立てを行い、 ①行政との支援交渉を行う ②企業などからの協賛を仰ぐ ③商工会、商店会からの支援を検討してもらう	・宇都宮国道や栗橋町には予算がない中で、費用は誰が負担するのか検討する必要がある
Plus α	・掛け替え工事が行われている利根川橋の完成時に行われる渡り初めイベントの企画に参画し、マスコミの取材などにより商店街をPRできる	・事前 PR を検討する必要がある 【問題点】 ・正確な供用開始時期が分からないため、早めに準備しておく必要がある。

■ 国道4号・新橋梁写真



Idea 4 : 街灯を利用したフラッグの設置

商店街の魅力を高める方法として、商店街全体の統一感を持たせることが考えられます。そこで、街路灯に統一されたフラッグを取り付けることにより、街並みの統一感や賑わいある明るく美しい街並みの創出につながると考え以下の通り提案します。

アイデア実行シート

実 行 日	平成21年4月	事 業 主 体	栗橋町・栗橋町商工会 検討中の活動組織	
プロジェクト名	街並み統一作戦 ―街灯フラッグ編―			
事業実施の効果	「魅力ある商店街づくりの第1歩」 商店街の魅力を高める方法として、全体に統一感を持たせることが挙げられる。商店街に今ある街路灯を利用してフラッグを取り付けることで、商店街に一定の統一感を持たせ、商店街の魅力をアピールすることにつながる。			
事 業 費				
平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
—	700, 000			
項 目	実施する事項など		検討する事項など	
Where どこを・誰を対象に (対象範囲)	・旧日光街道に店を構えている商店主 ・現在設置されている街路灯を活用する ・八坂神社～吉田工業間47基(左右両側)			
How どのようにして (実現手段)	・街路灯に設置されているフックを利用し、フラッグを設置する。 ・フラッグには、まちのマーク・キャラクター(くりちゃん)を入れることや、利根川をイメージ(水色)するなど栗橋らしさを特徴としたデザインとする ・歴史的(宿場)なイメージでデザインする ・キャッチコピーを入れる ・季節、イベント毎のフラッグを作成する(例:通常PRタイプ→夏祭りバージョン)		・フラッグの形、色、大きさ、材質等の決め方を検討する必要がある (案1)専門家に依頼する (案2)公募する ・街灯が高い、古いなど設置には危険が伴うので業者への依頼などを検討する必要がある ・汚れ、日焼け、風などによる破損の時にどうするか検討する必要がある	
When いつ (実現時期)	平成21年中 夏祭りバージョンのフラッグを作りたい			

Who だれが (実現体制)	・街路灯は個人の所有であり、商売をやめている所有者との交渉の必要となるので、栗橋町と商工会が中心となった方が進めやすい ・栗橋町と商工会を中心に商店会(加盟店)も協力して進める	・費用を誰が負担するか決める必要がある
How Much いくらで (必要費用)	・街路灯は計47基 ・フラッグの単価はサイズやデザインにより5,000円～54,000円/枚と幅がある 【費用の概算】 ・5,000円×50枚×2種類=500,000円 ・設置するための作業車両代80,000円×2回=160,000円 ・デザイン料:40,000円	・デザインを決めてから費用を算出するか、予算の枠内でデザインを決めるのか、実施することが決まれば検討を進める
Plus α	・フラッグデザインコンテストを実施して、採用作品を決定してはどうか →話題性・手作り感愛着感 ・4～5月にはフラッグの代わりに、「ミニ鯉のぼり」を泳がせてみてはどうか	【問題点】 ・街灯の間隔が片寄っている ・堤防事業により廃業する店舗が想定される ・東三交差点からは街路灯が少ない ・街灯の所有は個人になっている 20年以上前に県の補助と個人負担で設置 電気代、メンテナンス、撤去も個人負担

■ 街路灯を利用したフラッグの事例写真

ー古河市ー



ーさいたま市浦和駅周辺ー



4) 堤防工事中以降に実現したいアイデア

「目指すべきまちの姿」に近づけるため検討されたアイデアの中から、堤防工事中以降に「実現したい・実現させたいアイデア」として選び出し、その要点について検討しました。

その内容を「堤防工事中以降に実現したい12個のアイデア」として、今後実現に向けて優先的に検討していくことを提案します。

提案するアイデアを実現させるためには、国・県・町・商工関係者・企業・地域住民・学校など関係各位が互いに協力しあって、運営・参加・資金面等多方面からの支援が必要になります。

なお、堤防工事中以降に実現したいアイデアについて優先的に検討していくことを提案していますが、実現に関しては今後組織される活動組織でさらに検討を行うことが必要です。

その検討の結果、実現できないアイデアが出てくる可能性も充分考えられ、この12のアイデア以外から優先的に実現されるアイデアが出てくる可能性や、新たなアイデアが提案されそのアイデアが優先的に実現されるという可能性も考えられます。

■ 堤防工事中以降に実現したい -12個のアイデア-

- (1) 高齢者のための配達サービスの実施
- (2) 歴史ボランティアの育成
- (3) 堤防上をイベントスペースとして活用
- (4) 関所跡と資料館をまとめて設置
- (5) 花と緑の散歩道の整備
- (6) タウン誌の発行
- (7) 八坂神社の参道を整備
- (8) 利根川にキャンプ場を整備
- (9) サイクリングロードマップの作成
- (10) シャッターに絵を描いて活用
- (11) 個性的な専門店街の形成
- (12) 資源活用のまちづくりの実施

(1) 高齢者のための配達サービスの実施

超高齢社会に突入した現在、高齢者福祉は取り組まなければならない大きな問題です。この問題をピンチではなくチャンスとして捉え、高齢者に対しての配達サービスを行うことで、誰もが安全で快適に買い物ができる環境を整えることができると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「誰もが安心して住まえる地域づくりの第1歩」 超高齢社会に突入した現在、高齢者福祉は取り組まなければならない問題である。この問題をピンチではなくチャンスとして捉え、配達サービスを行うことで、誰もが安全で快適に買い物ができる環境を整えることにつながる。 また、高齢者のみならず、宅配サービスは子どもを育てる親への子育て支援施策として有効な手段となる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・超高齢社会の突入に伴う消費者の高齢化に対応する ・独自のサービスを行なうことで大型店との違いを際立たせることが可能となる ・地域の1人暮らしの高齢者を地域で支えるネットワークづくりにつながり、地域防犯にも役立つ	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・何を取り扱っているかが分かるパンフレットを作成し、欲しいものを簡単に探せて注文することができるようにする ・パンフレットは商店街の実店舗で取り扱っていない商品も含めた内容にする ・インターネットを活用し、様々な生活用品の宅配を可能にする	・町内のスーパーや高齢者対応のホームヘルパーが、似たサービスをすでに行っている ・サービスを行うための体制づくり(注文受付～取り揃え～配達～集金)が必要である ・インターネット注文の管理は誰が行うか
い つ 【行動時期】	・問題点を解決してできるだけ早く実施する	

(2) 歴史ボランティアの育成

この地域には、歴史の歩みとともに育んできた固有の資源が数多くあります。その資源の魅力を伝える歴史ボランティアを育成することで、地域の人々が資源を誇りに思い、その魅力を最大限発信することが地域を輝かせることにつながると思います。以下のように提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「歴史を感じるまちづくりの第1歩」 この地域は、歴史の歩みとともに育んできた固有の資源を多く有している。資源の魅力を伝える歴史ボランティアを育成することで、資源を地域の人々が誇りに思い、その魅力を最大限発信することが地域を輝かせることにつながる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・この地域にある歴史や自然などの地域資源をPRして来街者を増やすとともに、地域に住む人達にも知識を深めてもらうことで地域に対しての愛着を高める	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・この地域にある歴史や自然などの地域資源について、説明できるボランティアを育成し、来街者に対して説明を行う	・観光スポットの発掘、観光コースの設定が必要である ・人材の募集と育成が必要である ・説明資料や説明マニュアルの作成が必要である
い つ 【行動時期】	・平成23年以降、人材が集まり次第準備を始め、堤防が完成して散歩道が整備される頃の開始を目指す	

(3) 堤防上をイベントスペースとして活用

堤防上にできる大きな平場等をこの地域の新たな資源として捉え、イベントスペースとして活用することで、四季折々に多くの人々が訪れる賑わいづくりにつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「堤防を活かした地域の賑わいづくり」 堤防事業により、堤防上に新たにできる大きな平場等を資源と捉え、イベントスペースなどとして活用することで、四季折々に多くの人々が訪れる賑わいづくりにつながる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・地域の新たな資源である堤防上の平場や壁面を有効的に利用し、地域の拠点として整備することで、来街者を増やし地域の観光名所とする	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・壁面の活用法アイデア ①棚を設けて花鉢で飾る ②モザイク画を設置する ③壁面でウォールライミングができるようにする ・堤防上の平場の活用アイデア ①朝市を実施する ②花見ができるようにする ③夏祭りを開催する ④花火大会を開催する ⑤四季を通して様々なイベントを実施する ⑥グランドゴルフ場などを作る ・堤防のり面の活用アイデア ①四季折々、草花の植栽をする ②花鉢でシンボルマークやキャラクターを作りPRする ③芝刈りアートコンテストを行う	・イベント等を行うスペースはあるのか ・管理は誰が行うのか ・堤防を利用することへの法的な制限はあるのか →利根川上流河川事務所や宇都宮国道事務所と協議する必要がある ・来街者に対して満足させるイベントを実施できるかが問題
い つ 【行動時期】	・整備の計画段階から加わり、有効的な利用方法について話し合い、堤防の完成と同時に開始することを目指す ・それぞれのイベントは、最も適した時期に行う	

(4) 関所跡と資料館をまとめて設置

堤防上に新たにできる平場に、関所跡などの地域の資源や歴史資料館などを整備し活性化のための拠点施設として活用することで、地域の賑わいを高めることにつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「地域資源を集約した地域の拠点づくり」 堤防上にできる平場に、関所跡などの地域の資源や多目的に活用できる歴史資料館などを集約し、活性化のための拠点施設として活用し、地域の賑わいを高める。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・新たにできる堤防上の広場を効率良く活用する。 ・関所跡碑などの地域資源や史料館など新たな施設を整備することにより、新たな交流核施設とする。	・建築物を堤防上に占用して建築できるか確認する必要がある
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・堤防上に移転する八坂神社を核として下記のような施設を整備し、地域住民や来訪者が利用できる交流拠点施設(川の駅)としての役割を持たせる ①関所をモチーフした歴史資料館 ②関所跡碑を中心にした公園 ③商工会館 ④休憩所 ⑤そば店 など	・高い場所に移転することになるので、アクセスが問題になる ・資料館等の建設費用が莫大になることが考えられ、それを誰が負担するのが問題になる ・史料館の管理・運営は誰が行うのか
い つ 【行動時期】	・八坂神社の移転に併せて整備を進め、堤防完成時には使用開始することを目指す	

(5) 花と緑の散歩道の整備

新たに整備される堤防を活用し、花と緑あふれる散歩道を整備することで、この地域の人々の自然と親しむ環境と交流を充実させることにつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「堤防を活かした地域のふれあいづくり」 堤防事業により新たにできる堤防を活用し、花と緑あふれる散歩道として整備することで、自然と親しむ環境と地域の交流を充実させることにつながる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・地域内の人々の交流を活発化させるとともに、地域内の資源を有機的に結びつけることで賑わいを高める	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・八坂神社などの地域内の各資源や商店街を回遊できるように散歩道を整備する ・堤防法面には芝や草花、花の咲く樹木(低木)などの植栽を行う	・散歩コースの設定が必要である ・堤防法面の草刈りなど管理をしっかりと行う必要がある ・草花や低木は誰が植栽、管理は誰が行うのか ・散歩道そのものの整備は誰が行うのか
い つ 【行動時期】	・堤防工事中に準備を始め、堤防完成時には開始できるように利根川上流河川事務所に働きかけていく	

(6) タウン誌の発行

堤防事業による地域の変化を正確に把握し、また地域の様々な情報を発信するためにタウン誌を発行することで、自分達の住む地域に関心が高めることや住民と商店との交流づくりにもつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「地域に密着した情報の発信」 これから行われる堤防事業による変化を把握するためには常に最新の情報を持っていることが重要である。堤防事業だけでなく地域の様々な情報を発信することで、自分達の住む地域に関心が高めることや住民と商店との交流づくりにもつながる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・地域の様々な情報を満載したタウン誌を発行することにより、地域をPRして来街者を増やし、地域の賑わいを高める	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・「武州路」のように月刊誌化して常時情報を発信して地域のPRを行う ・町や商工会のホームページに掲載し、多くの人へ情報発信する	・堤防工事による店の移転や休業に対応する必要がある ・町のホームページに掲載可能か調整する必要がある
い つ 【行動時期】	・早い時期に準備を始め、堤防工事によるまちの変化を伝えられるようにする	・編集委員会を組織する必要がある

(7) 八坂神社の参道を整備

八坂神社は栗橋町の日出ずる起点であり、この地域のシンボルでもあります。堤防上に新たにできる平場に神社を移転させ、地域と結ぶ参道を整備することで、八坂神社との一体感と地域の歴史を感じる魅力を高めることにつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「八坂神社を活かした歴史を感じる地域づくり」 八坂神社は栗橋町の日出ずる起点であり、地域のシンボルである。堤防上の平場に神社を移転させ、地域と結ぶ参道を整備することで、地域との一体感と歴史を感じる魅力を高める。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・古くから由緒ある八坂神社は、関東3大神輿の一つである大神輿や、樹齢300年以上のけやきがあり、栗橋町の象徴的な存在である ・地域だけでなく栗橋町全体の重要な歴史資源である八坂神社の存在感を高めてPRすることで、参拝者を増やし地域の賑わいを高める	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・参道整備と併せて境内の整備も行い、イベントスペースとして活用する ・旧日光街道沿線についても関所跡や門前町としての歴史資源を活用した整備を行い、参道整備との相乗効果を図る ・参道は階段ではなく坂道として整備し、脇には花や木を植えて灯籠などを設置する	・堤防上へ移転するにあたり、大木の移植が難しい状況にある ・沿線住民が歴史をイメージした改修を自ら行うことに賛同するか ・まちの景観を統一するため、地区計画や建築協定まで発展させるのか ・参道は、河川用地を占用して整備することになるため、利根上との調整が必要である ・参道や境内の整備費用は誰が負担するのか
い つ 【行動時期】	・八坂神社の移転や堤防工事と並行して準備を始め、八坂神社の移転完了・堤防完成時には使用開始することを目指す	

(8) 利根川にキャンプ場を整備

現在ほとんど活用されていない利根川河川敷を地域の資源として見直し、キャンプ場として整備することで、この地域に興味がなかった人達にも興味を持ってもらい、地域の賑わいを高めることにつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「河川敷を活かした地域の賑わいづくり」 活用されていない利根川河川敷を資源として捉えてキャンプ場として整備することで、この地域に興味がなかった人達にも興味を持ってもらい地域の賑わいを高めることにつながる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・地域特有の資源を有効に活用する ・アウトドア、エコロジー推奨の地域としてPRする ・訪れるキャンパーとの交流や地区の購買増加へつながる	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・多様な人達とふれあう交流ネットワークの拠点として、バックパッカーが宿泊できるキャンプ場を整備する	・利根川の栗橋町側は水深が深く学校では遊ぶことが禁止されている ・河川敷の占有をする必要があるので、利根川上流河川事務所との話し合いが必要である ・キャンプ場の建設費用が莫大になることが考えられ、その費用を誰が負担するか ・ゴミ問題や騒音問題などの環境問題が発生することが考えられ、それらの地域への影響が問題になる
い つ 【行動時期】	・早めに利根川上流河川事務所に働きかける必要がある	

(9) サイクリングロードマップの作成

自転車は健康増進の道具として、また排出ガスを出さないクリーンな交通手段として注目されています。自転車での来街者の増加を目指し、この地域を中心としたサイクリングロードマップを作成することで、地域のPRと近隣地域の資源も含めた広域的な資源のネットワークの形成につながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「自転車による広域資源ネットワークの形成」 自転車は健康増進の道具として、また排出ガスを出さないクリーンな交通手段として注目されている。サイクリングロードマップを作成することで、地域のPRと近隣地域の資源も含めた広域的な資源のネットワークの形成につながる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・地域のPRを行うとともに、自転車を利用した健康づくりを推進することで来街者を増やし、賑わいを高める	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・栗橋を中心としたコースを設定する ・堤防河川側のり面の工事用道路を利用して、サイクリングロードを整備する ・自転車を貸し出し、サイクリングの拠点とする	・サイクリングロードは完全にはつながっていないので、栗橋町だけでなく周辺自治体との協力が必要である ・自転車を貸し出す場合のサイクルセンターを位置づける必要がある ・自転車を貸し出すシステムやそのための人員、自転車そのものの手配等どのように手だてするか
い つ 【行動時期】	・堤防が完成してから作成する	

(10) シャッターに絵を描いて活用

商店街の中には、商売をやめてシャッターを下ろしてしまっている店舗があります。このシャッターを資源として活用し、シャッターをキャンバスにして絵を描くことで、商店街の注目度を高め、商店街の魅力をアピールすることにつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「魅力ある商店街づくりのさらなる1歩」 商店街の中には、商売をやめてシャッターを下ろしてしまっている店舗がある。このシャッターを資源として捉え、シャッターをキャンバスにして絵を描いてもらうことで、商店街の注目度を高め、商店街の魅力をアピールすることにつながる。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・平凡なシャッターに絵を描くことで、まちの景観に一定の統一感を与えることができ、商店街のイメージアップにつながる ・中高生や絵画クラブの人達に描いてもらうことで、商店街がより身近に感じてもらうことができる ・歯抜けシャッター通りをどのようなコンセプトで、どのようなもの描くのか、コンペなど一般公募等を行い、地域の活性化へつなげる	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・商店街の各店のシャッターに、利根川やハクレン、宿場の風景など地域に関連する絵を描いて、夜でも見えるようにライトアップなどを行い、街並みを少しでも明るくする	・現時点でも店舗は歯抜け状態だが、堤防工事により店の移転や休業・廃業が考えられ、絵を描くことができるシャッターを確保することが難しい ・各店舗の協力を得ることが必要である ・絵を描く費用や管理をどのようにするか ・シャッターに描く絵をどうやって決めるか
い つ 【行動時期】	・予算が確保でき次第、開始することを目指す	

(11) 個性的な専門店街の形成

商店街は、この地域で育まれてきた重要な資源です。地域に根ざした商店街にしかできないおもてなしのサービスを行うことが、大型店との違いを際立たせることになり、地域に愛される商店街づくりにつながると考え、以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「賑わいあふれる商店街づくりの実現」 地域に根ざした商店街にしかできないおもてなしのサービスを行うことで、大型店との違いを際立たせることになり、地域に愛される商店街づくりを行う。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・専門的な知識や心を込めたおもてなしを提供することで、大型店にはない特徴を出して、来街者を増やし店舗の売り上げの増加を図る	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・地域の歴史資源、自然資源、栗橋町の赤花そば・苺などの生産資源を利用して、特産品や名物になる商品を開発する	・実現のためには商店街全体で考え方を統一する必要があるので、商工会が中心となって検討していく必要がある
い つ 【行動時期】		

(12) 資源活用のまちづくりの実施

この地域には、地域が育んできた様々な資源があり、堤防事業により新たな資源がさらに生み出されます。これらの資源をうまく組み合わせてまちづくりを行っていくことで、地域の賑わいを高めることにつながると考え以下の通り提案します。

アイデア検討シート		
事業実施の目標	「利根川と栗橋人のふれあうまち の実現」 地域が育んできた様々な資源や、堤防事業により新たな資源がさらに生み出される。これらの資源をうまく組み合わせたまちづくりを行う。	
項 目	意 見	問 題 点
な ぜ 【実施理由と効果】	・全てのアイデアが「資源活用のまちづくりの実施」というアイデアにつながるので、一体となって取り組んでいくことが重要である	
特徴など 【特徴、目標、期待することなど】	・この地域の活性化に向け、以下の資源をうまく絡み合わせ実行することが重要である ①この地域には、日光街道の宿場町としての歴史や利根川や八坂の森などの自然など、様々な資源を有している ②町の総鎮守である八坂神社がある ③夏祭りやハクレンのジャンプなど、この地域だけの資源を有している ④昔から近所づきあいの良い地区である ⑤堤防事業により新たな資源(のり面・広場)が生まれる	
い つ 【行動時期】		

5. 『目指すべきまちの姿』の実現へ向けた体制づくり

5-1 活動組織の必要性

「目指すべきまちの姿」に近づけるため提案されたアイデアの中から、「来年度に実現したい・実施すべき4つのアイデア」「堤防工事中以降に実現したい12のアイデア」を選び出し、その具体的方策や要点を検討してきました。

これらのアイデアを実行に移すには、予算の算定や各種機関への予算要望、関係者への協力依頼、PR活動など、様々なことがらに取り組んでいかなければなりません。

また、より多くの人の目にとまり、理解や協力・参加が得られるようなさらなるアイデアや仕組みを検討することも重要になります。

たった1つのアイデアであっても、実行に移しさらなるアイデアや仕組みを考えることは、1人の活動や発想だけでは難しいということを、パイロット事業を実施し経験することで痛感しました。

「目指すべきまちの姿」に少しでも近づけたいと願う人や、この地域に誇りや愛着を持つ人など、この地域を活性化させることに熱意を持つ皆さんの力を重ね合わせ役割分担しながら協力して活動していくためのまとまりとなる「活動組織」が必要になります。

「活動組織」によって様々なアイデアが実行に移されることにより、生きたアイデアとしてその効果が最大限に発揮されるようになると考えています。また、行政や関係機関・企業などと連携し、助成や補助・協賛などの経済的支援やアイデアを検討・実行する上でのノウハウなどの提供を得やすくするためにも、「活動組織」が必要であると考えています。

はじめは小さな「活動組織」であっても、様々な人達の理解や協力を得ながら活動していく中で、将来的には「活動組織」がNPOやまちづくり会社に発展していくことも考えられます。そうなることで、さらなる発展が可能な組織としてこの地域の中で、より主体的・直接的に活動を行っていくことが可能になると考えています。

５－２ パイロット事業を実施した組織

「目指すべきまちの姿」に近づけるため提案されたアイデアの中から、「まちなかの小さな美術店 通り」と「花街道（Flower Road）づくり運動」の２つのアイデアを、この地域の活性化へ向けた呼び水とも言えるパイロット事業と位置づけ、今年度から実施することとしました。

パイロット事業を実施するには、地域住民や商店主へのＰＲ活動をはじめ、運営資金の調達や管理、材料の手配、段取りなどを行うための「活動組織」の必要性が検討されました。

その結果、作業部会委員１１人をメンバーとした「パイロット事業実行委員会」を組織し、事業の実施および運営にあたりました。

パイロット事業実行委員会 会則

平成２０年９月２４日
第７回作業部会で承認

（目 的）

利根川沿川栗橋地区の活性化に向けて、目指すべきまちの姿である「利根川と 栗橋人の ふれあうまち」への第一歩として、パイロット事業を実施するための組織です。

（メンバー）

実行委員会のメンバーは以下の通りとします。また、活動に賛同される方は自由に参加できます。

- 作業部会委員の皆さん（１１名） リーダー 吉岡 良昭

（予算管理）

予算の管理者は以下の２名とします。

- 柿沼 文男 田沼 正一

（活動期間）

実行委員会の活動期間は以下の通りとします。

- 新たな活動組織が立ち上がるまで（～２００９年３月頃）

（後 援）

後援団体は以下の通りとします

- 栗橋町
- 栗橋町商工会
- 利根川沿川栗橋地区活性化検討委員会

5－3 発展する活動組織

1) 引き継がれる活動組織

検討委員会では、この地域の活性化方策を考える指針となる「目指すべきまちの姿」を作成し、「目指すべきまち」の姿に近づけるために実現したいアイデアの検討を行い、昨年11月には「来年度に実現したい・実施すべき4つのアイデア」をまとめた、「中間提言書」を町に提出しました。また、作業部会委員をメンバーとした「パイロット事業実行委員会」を組織し、「まちなかの 小さな美術店 通り」と「花街道（Flower Road）づくり運動」をパイロット事業として実施しました。

「目指すべきまちの姿」の実現に向けて来年度「活動組織」が目指すものは、「来年度実施したい・実施すべき4つのアイデア」である2つのパイロット事業を今年度の経験をもとに発展させながら継続して実施することと、新たに「新利根川橋渡り初め」と「フラッグによる街並み統一作戦」の2つの事業を実行に移しながら、「堤防工事中以降に実現したい12のアイデア」についての具体的方策の検討などに着手することだと考えています。

来年度の「活動組織」のメンバーとしては、パイロット事業実行委員会の11人のメンバーを基本にすることで、これまでの経験や知識を引き継いでいくことを考えています。また、「活動組織」のPR活動や、アイデアを実施していく中で、特技を活かせる人や興味・関心がある人が自発的に「活動組織」に参加し、アイデアの実施に協力するなど、様々な形の支援が得られることも期待しています。

また、栗橋町には検討委員会では事務局として、「パイロット事業実行委員会」では関係機関との調整役として、活動の裏方を担っていただきました。来年度も引き続き「活動組織」と連携した側面的な支援を期待しています。

2) 活動組織の将来像

「目指すべきまちの姿」を実現するためには、来年度だけでなくそれ以降も「活動組織」が中心となって様々なアイデアを企画・検討・実行し、何よりも継続して活動していく必要があります。

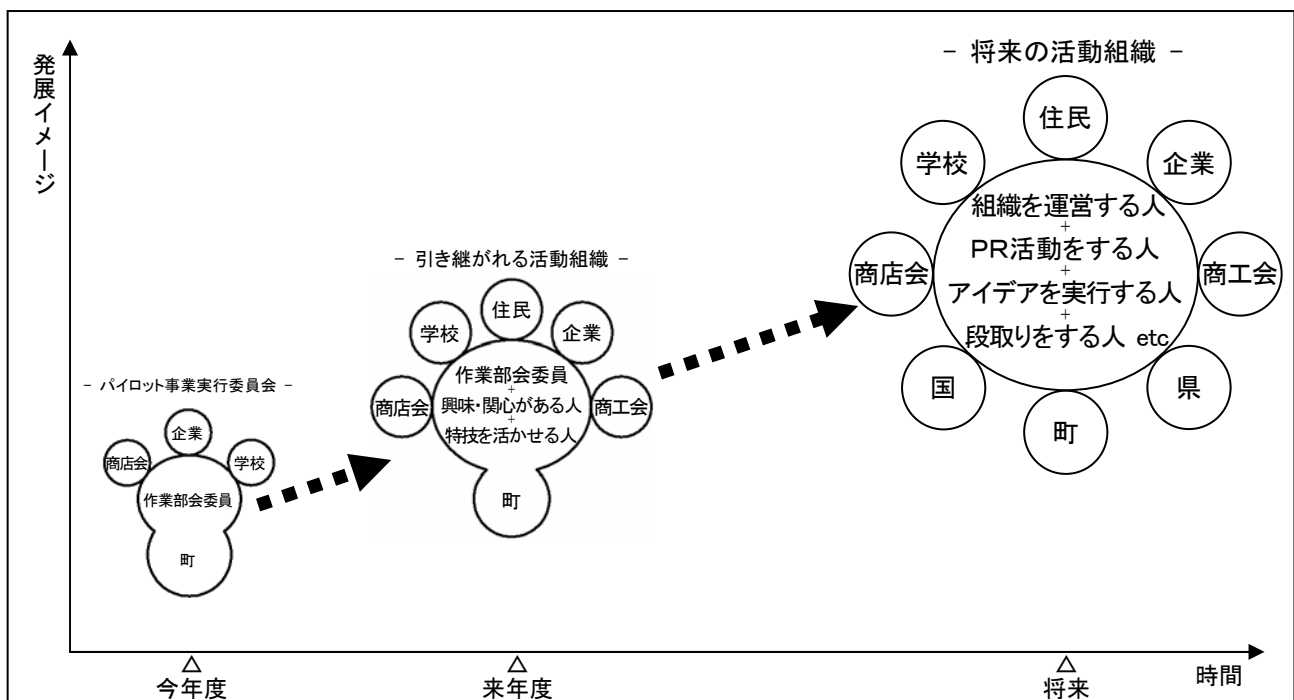
しかしながら、企画・検討・実行していくアイデアは「今年の目標」から「来年の目標」、「将来の目標」へというように、実現可能なものから徐々にステップアップして、大規模で広範囲なものになると考えています。これに対応するには、「活動組織」を単に継続させるだけでなく、それに見合うように発展させていくことが必要だと考えています。

「活動組織」を発展させていくためには、組織運営を行う人、アイデアを企画し実行へ移す段取りをする人、PR活動をする人、実際にアイデアを実行する人など、様々な役割の中で特技を活かせる人や興味・関心のある人、できることを手伝ってくれる人などが「活動組織」に参加してもらうことが必要だと考えています。

また、国・県・町をはじめ、商工関係者、企業、地域住民、学校などが一緒になってこの地域を見守りながら「活動組織」に参加・協力・支援する輪を広げていくことも必要になると考えています。

はじめは小さな「活動組織」であっても、「活動組織」を発展させていく中で徐々に地域がひとつになってやがて自立した活動に取り組めるようになると考えています。そうなることで、将来に渡ってこの地域の皆さんが「この地域を誇りに思い、愛着の持てる」郷土愛の心でつながると考えています。

■ 「活動組織」の発展マップ



5－4 活動と支援の輪を広げるために

「目指すべきまちの姿」を実現するためには、地域住民の皆さんをはじめとした様々な分野の人達が「活動組織」に賛同して参加することや、実施されるアイデアに参加・協力・支援するなど、徐々にでも連携の輪を広げていくことが必要ではないかと考えています。

1) 地域住民（自治会）

地域住民の皆さんには、「目指すべきまちの姿」の実現に向けた「活動組織」や実施されるアイデアに賛同してもらい、まずは興味のあることやできることから参加をお願いしたいと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・自身の趣味や特技などを「活動組織」の中で活かし、アイデアの企画や実行の協力をする
- ・実施されるアイデアに対して、できることから参加、協力する
- ・地域の皆さんで考えたルールや申し合わせ事項にできるだけ協力し実践する

2) 商店会

商店会の皆さんには、地域住民の皆さんと同様に、「目指すべきまちの姿」の実現に向けた「活動組織」や実施されるアイデアに賛同してもらい、まずは興味のあることやできることから各商店で参加をお願いしたいと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・各商店の持つ技術や知識、経験や特色などを「活動組織」の中で活かし、アイデアの企画や実行の協力をする
 - ・実施されるアイデアに対して、地域住民の皆さんの参加を促す案内役としてできることから参加、協力する
 - ・実施されるアイデアのPRや募集案内など、店舗などを利用した広報活動に協力する
 - ・実施されるアイデアに対して、可能な範囲で活動資金の支援を行う
 - ・地域の皆さんで考えたルールや申し合わせ事項にできるだけ協力し実践する
-

3) 企業

企業の皆さんには、地域の一員として「目指すべきまちの姿」の実現に向けた「活動組織」や実施されるアイデアに賛同してもらい、まずはできることから参加し、地域との関係の密接化をお願いしたいと考えています。

社会貢献活動として地域活動に進んで参加することは、企業が持つ重要な役割の一つだと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・ 企業の持つ技術や知識、経験や特色などを「活動組織」の中で活かし、アイデアの企画や実行の協力をする
 - ・ 実施されるアイデアに対して、社員の同意を得ながら可能な範囲で参加、協力する
 - ・ 実施されるアイデアに対して、可能な範囲で活動資金の支援を行う
 - ・ 地域の皆さんとの信頼関係を構築し、住みやすい住環境整備に向けて協力する
-

4) 商工会

商工会は、商工業の振興や地域の社会・文化的な発展に大きな役割を果たすことを使命としています。そのようなことから、商店会とともに地域の一員として「目指すべきまちの姿」の実現に向けた「活動組織」や実施されるアイデアに賛同してもらい、活動の推進役としての参加をお願いしたいと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・ 商工会の持つ技術や知識、経験や特色を「活動組織」の中で活かし、アイデアの企画や実行の協力をする
 - ・ 実施されるアイデアに対して、商店会や企業からの参加、協力を促す案内役として参加、協力する
 - ・ 実施されるアイデアに対して、可能な範囲で活動資金の支援を行う
 - ・ 実施されるアイデアのPRや募集案内など、商店会や企業と連携して広報活動に協力する
 - ・ 地域の皆さんで考えたルールや申し合わせ事項に商店会や企業と連携して協力し実践する
-

5) 栗橋町

栗橋町には、「この地域の活性化こそが町全体の活性化につながる」ということをまず認識して欲しいと考えています。

そして、「目指すべきまちの姿」の実現のために様々な支援をお願いしたいと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・ 町の持つ技術や知識、経験などを「活動組織」の中で活かし、アイデアの企画や実行の協力をするとともに、組織力の強化を図りながら、「活動組織」の自主運営に向けた支援を行う
- ・ 実施されるアイデアに対して、地域住民の皆さんや学校などからの参加、協力を促す案内役として協力する
- ・ 公共性の高いアイデアに対して、活動資金を補助するなどの支援を行う
- ・ 実施されるアイデアのPRや募集案内などに対して、町の広報やホームページなどを利用した情報発信に協力する
- ・ 堤防強化事業との連携や活動に対する補助金要望など、国、県などの行政機関とのパイプ役になる

6) 埼玉県

「目指すべきまちの姿」の実現に向けて実施しているアイデアを、ステップアップさせてより魅力的なものにすることや、新たなアイデアを実施するためには、これまで以上に様々な技術や知識が必要になります。

埼玉県には、アイデアの実施がスムーズに進むよう支援をお願いしたいと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・ 県の持つ技術や知識などを「活動組織」の中で活かし、アイデアの提供や実行にあたっての協力をする
 - ・ 実施されるアイデアに対して、企画段階から必要な指導、助言を行うとともに、先進地事例や専門に活動している団体などの情報提供を行う
 - ・ 有効な補助制度などの紹介や、活動資金の支援を行う
 - ・ この地域の活動状況などを、県の情報発信ツールを活用しPR活動の支援を行う
-

7) 利根川上流河川事務所

「目指すべきまちの姿」に近づけるためのアイデアの中には、利根川上流河川事務所が行う堤防強化事業と深く関わるアイデアが多くあります。

利根川上流河川事務所には、「目指すべきまちの姿」の実現に向けたこの地域の活動を河川と都市の関わり方のモデルケースとして位置づけ、活動への支援をお願いしたいと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・ 国の持つ技術や知識などを「活動組織」の中で活かし、アイデアの企画や実行の協力をする
- ・ 堤防強化事業に関わるアイデアを実施するにあたっては、有効な活動支援事業等の紹介など「活動組織」と密接に連携し可能な範囲で協力する
- ・ 河川と都市の関わりのあるあり方のモデル地区となるよう、地元と連携し堤防強化事業を推進する

8) 学校

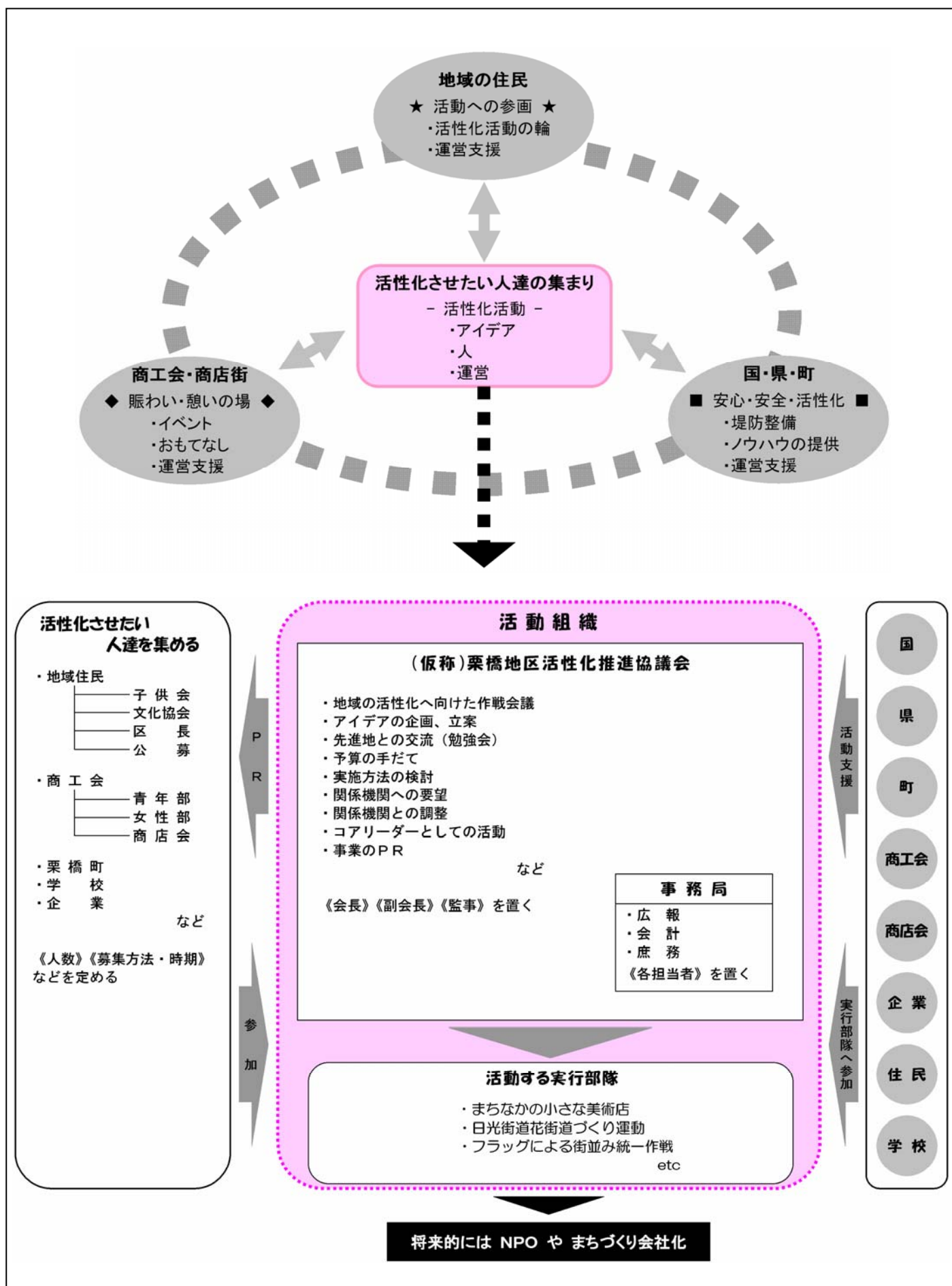
「目指すべきまちの姿」の実現のためには、町内の小・中学生、高校生など、若い年代の協力が必要です。「活動組織」が実施するアイデアに学校行事として協力することで、継続的な発展の下地が築かれていくものと期待しています。

また、周辺の大学が「活動組織」や実施されるアイデアに賛同し参加することで、地域に活気が生まれることや、学生の調査研究にも役立つと考えられることから、アイデア企画から実行までの幅広い支援をお願いしたいと考えています。

《活動内容や支援の例》

- ・ 町内の小、中学校、高校は絵画の提供や美化活動など、実施されるアイデアに対して、できることから参加、協力する
 - ・ 周辺大学は「活動組織」と連携し、若者特有の発想や行動力などを「活動組織」の中で活かし、アイデアの企画や実行の協力をする
-

■ 将来の「活動組織」の役割と体制イメージ



— おわりに —

平成19年7月に始まった利根川沿川栗橋地区活性会検討委員会は本年2月の委員会をもって6回を数えました。

そしてその間、各委員仕事が終わってからの貴重な時間を割き、自由な意見が出せるワークショップ形式で作業部会を合計9回開催してきました。

検討委員会ではまず現在のこの地区がどういう状況にあり、どういう特色や課題があるのかを再確認することから始めました。

再確認した様々な特色や課題を、この地域固有の資源として活用する方策や、将来この地域がどのようなまちであったら良いのか、なるべきなのかを考えました。

そしてこの地区の活性化へ向けた指針となる10年後の「目指すべきまちの姿」を策定し、そこに近づけるためのアイデアの検討を行いました。

その後多くの関係者のお力添えをいただきながら検討を重ね、昨年からは「プランター」「街角ギャラリー」と言った2つのパイロット事業に着手しました。

これらの事業を実施することで、今後の活動への自信になるとともに、地域の連帯感や仲間意識が深まりました。

本日ここにこの地域のキャッチフレーズである「利根川と 栗橋人の ふれあうまち」の実現へ向けた「提言書」を作成・提出の運びとなりました。

パイロット事業で最初の一步を踏み出したこの地域の活性化に向けた取り組みはこれから本番です。

今後活動組織の一員として事業に取り組む人はもちろん、この地域に関わる多くの人々が、この「提言書」を理解し、活用されることを希望します。

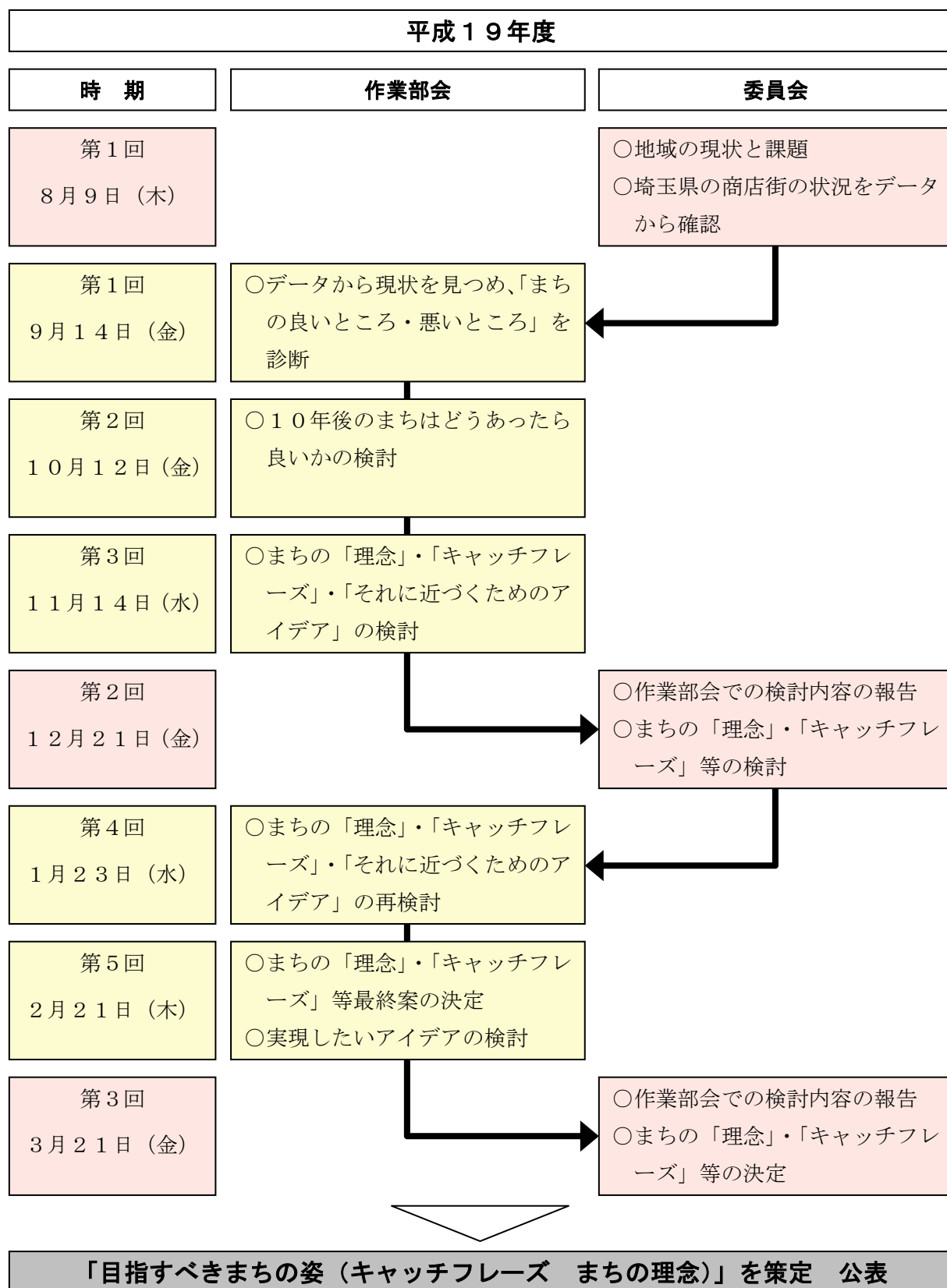
その上で、これから展開されるひとつひとつの事業を継続させることで、地域の賑わいやコミュニティーの創造につながると考えています。

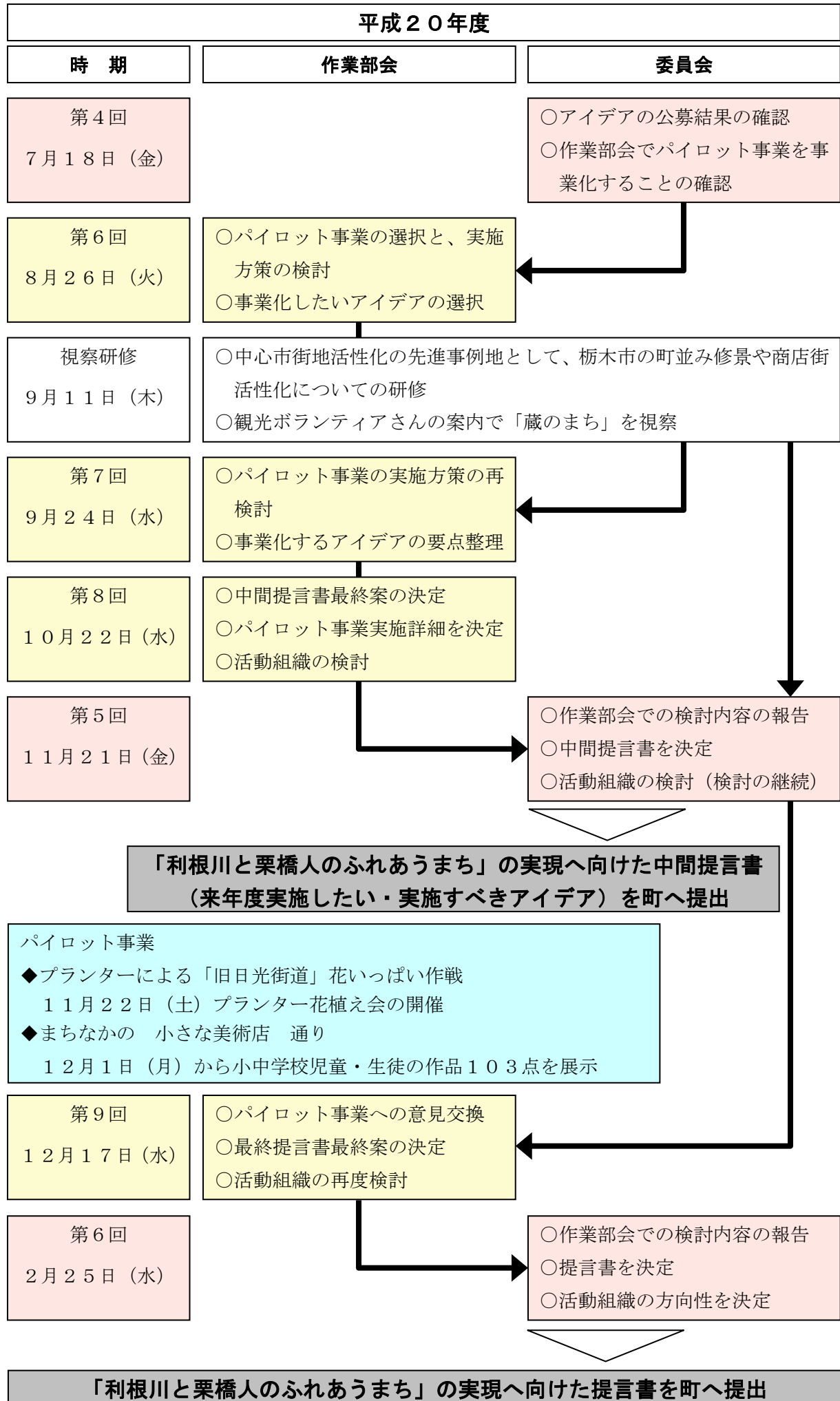
最後に、これまでこの委員会に関わり、ご尽力いただいた方々に深く感謝を申し上げます。

利根川沿川栗橋地区活性会検討委員会
委員一同

《資料》検討スケジュール

検討委員会は、平成19年8月に設置され、平成21年2月まで計6回の委員会と9回の作業部会を開催し、検討を重ねてきました。





利根川沿川
栗橋地区活性化
検討委員会